



あ
ん
な
い
な
ん
の
あ
い
な
ん

7/20 8/4 写真1 一本松、城辺で夏まつり

7月20日(土)、町内では今年最初の夏祭りとなる「一本松夏祭り」が一本松商店街周辺で開催されました。歩行者天国となった商店街周辺には各種団体による出店が並び、餅まきや地元アマチュアバンドライブなどが行われました。また、会場からほど近い出雲大社一本松教会には茅の束で作った大きな輪をくぐる「輪抜け」に多くの参詣者が訪れました。

また8月4日(日)には、町内の小・中学生などから募集した俳句を清書したあんどん約300個で飾られた城辺商店街で「城辺夏まつり」が開催され、地元団体や露天商の出店が数多く並んだ商店街に大勢の家族連れなどが訪れました。祭りは、城辺小学校トランペット鼓隊を先頭に各種団体による「愛南音頭」の踊りパレードで幕を開け、商工会城辺支所前広場の特設ステージでは、缶ジュース積み上げ大会や仮面ライダーウィザードショーなどが行われて祭りを盛り上げました。

本日! 海日和!! vol.34 「海底の森」



ガラモ場とカマスの群れ

最近では磯焼けで、めっきりと藻場が少なくなっていたが、今年は瀬ノ浜で、ホンダワラ類の藻場、ガラモ場が復活していた。

海底から立ち上がる無数のホンダワラは、まるで海底に出現した森のように見える。ホンダワラには小さなエビやカニなどの甲殻類が住んでおり、それをエサにする小魚が集まってくる。そして、その小魚を狙って、スズキやヒラメなどの大型の魚も集まってくる。藻場の復活は、海の生態系の復活でもある。

春先に出現したホンダワラの森は、8月になると、次々と海底を離れ、流れ藻となっていった。今後は沖合を漂いながら、モジャコ(ハマチの稚魚)など、回遊魚の住みかにもなる。愛南の海の豊かさを語る際には、サンゴが脚光を浴びることが多いが、藻場の存在も忘れてはならない。

南方系のサンゴの群落と、北方系の藻場が混在していることが愛南の特徴であり、豊かさの象徴でもある。サンゴの白化など、暗い話題が続いていたが、久しぶりに明るい出来事であった。

(撮影地: 瀬ノ浜) 愛南サンゴを守る会 西尾知照

8/14 写真4 14 伝統の舞
～能山踊り～

久良に伝わる「能山踊り」が、真浦地区の古木庵で奉納されました。「能山踊り」は、戦国末期に土佐の長宗我部氏に敗れて久良に落ち延びたといわれる御莊領主勸修寺左馬頭基賢(顕徳院殿能山祐賢大居士)を慰霊する民俗芸能で、毎年8月14日に踊られます。

HOME PLANET



一本松夏祭り



城辺夏祭り



2



3



4



5

写真 3

1 御荘病院夏祭り

御荘平山の御荘病院で「第27回夏祭り」が開催され、浴衣姿の親子連れなど大勢の来場者で賑わいました。

会場には、多くのボランティアスタッフによる物産販売や金魚すくい、射的ゲームなどの出店が並び、特設ステージでは、らくさぶろうさんを進行役に浴衣美人&甚平美男コンテストやラムネの早飲み競争など楽しい催しで盛り上がりました。最後は、約100発の花火が打ち上げられ、楽しい夏のひとときが幕を閉じました。

写真 2

11 本物の芸術に触れる

子どもたちに本物の演劇や舞台芸術に触れてもらおうと、御荘文化センターで影絵劇団かしの樹による生演奏つき音楽影絵劇「セロ弾きのゴーシュ」が上演されました。

公演は2部構成で行われ、第1部では、アンサンブル「オーアーズ」によるミニコンサートでチェロ・バイオリン・ピアノの三重奏が観客を魅了し、第2部の生演奏つき影絵劇では、子どもたちが目を輝かせながらスクリーンに映し出される楽しい影絵に見入りました。

写真 5

10,11 シュノーケリングで海の探検

『日本の渚百選』のひとつ須ノ川海岸で「会いに行こう。海の生き物!! シュノーケリング探検隊 in 須ノ川」が行われ、愛南町の美しい海をシュノーケリングで楽しもうと、約40名が参加しました。初めてシュノーケリングに挑戦する参加者もいましたが、インストラクターの丁寧な指導もあり、参加者全員がシュノーケルやフィン(足ひれ)を上手に使い、海中の色鮮やかなサンゴや熱帯魚などを観察していました。